

令和3年度 第1回横須賀市子ども読書活動推進計画改定検討委員会 会議録

- 1 日時 令和3年6月10日（木）14：00～16：10
- 2 場所 横須賀市役所 正庁
- 3 出席者
 - 【委員】 伊藤英幸委員、岩間数子委員、金崎敬子委員、
河合健治委員、川口香世委員、千錫烈委員、横倉久委員、
 - 【事務局】 新倉聡：教育長、山口正樹：中央図書館長、橘広基：同係長、
関澤優子：同主任
 - 【傍聴者】 なし
- 4 議 事
 - 委嘱状交付
 - 教育長あいさつ
(事務局) 教育長は、他の業務のため、ここで退席させていただく。
(教育長退席)
 - 委員自己紹介
 - 子ども読書活動推進計画改定検討プロジェクト会議について
(事務局) 本委員会の下部組織である改定検討プロジェクト会議の役割、構成員の紹介及び、本委員会に出席する構成員について説明。
続いて、事務局出席者の紹介。
 - 委員会の成立について
(事務局) 本委員会は「横須賀市子ども読書活動推進計画改定検討委員会条例」
(以下「検討委員会条例」とする) 第4条第2項に基づいて委員7名
中7名の出席により、本委員会が成立されていることをご報告する。
 - 傍聴及び会議録について
(事務局) 本委員会は傍聴実施要領により、傍聴を実施するとともに、審議会

の設置及び運営に関する要綱に基づき、会議録を作成し、公表する。

(1) 委員長・副委員長の選任

(事務局) 「検討委員会条例」第3条第1項で「委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する」と規定している。

また、同第2項で「委員長は、会務を総理し、会議の議長となる」と規定している。委員長選任後は、委員長に会議の進行をお願いしたい。

まず委員の皆様から委員長及び副委員長をお選びいただきたい。どなたか意見はあるか。

(事務局) 事務局案として、千委員を委員長、伊藤委員を副委員長に推薦する。

(委員) 異議なし。

(千委員、伊藤委員が委員長席、副委員長席に移動)

○ 諮問書の交付

(中央図書館長より委員長に諮問書を交付)

(2) 第4次横須賀市子ども読書活動推進計画について

(委員長) それでは、次第に沿って、議事を進める。事務局から説明をお願いしたい。

*事務局が【資料3】「第4次横須賀市子ども読書活動推進計画作成にあたって」と【資料5】「横須賀市の児童・生徒の読書実態調査(報告書)」について概要を説明。

(委員長) 事務局から、横須賀市の子ども読書活動の現状、第3次計画の成果などについて説明があった。まずは、現状や第3次計画の成果等について、質問や意見はないか。

(委員) 何年か前の調査結果で学校間の差があるとのことだったが、その差について、もう少し具体的に説明してほしい。

(事務局) 学校間で読書冊数等に差があるのは事実であるが、この取組をしたから読書冊数が伸びたといった、明確な相関関係が証明されているわけではない。そのなかで、朝読書などの取組を行っていない学校に対して、圧力をかけることは避けたい。

しかし、こんな取組をしたら子どもたちの読書に取り組む姿勢が変わったといった事例を示すことは重要だと考えている。

(委員) 学校としても、子どもの読書実態を良くするための具体的な手立て

を示されなければ、何をすればよいのかわからない。

(事務局) 第3次計画書の19ページに示した取組事例は、先進的な取り組みをし、成果が出ている学校のものである。このような事例については積極的に示していくことが必要であると教育委員会でも考えている。

(委員長) 学校司書を配置したことによる、子どもの変化について、学校から報告はあるか。

(事務局) 学校司書が配置された学校については、学校図書館の環境が大きく改善されたという報告がある。ただし、学校司書の配置で、すべての問題が解決するわけではない。

(委員長) 学校司書の学校での活動について、その実際を教えてほしい。

(委員) 学校司書は、子どもたちが行きたくなるような学校図書館を目指して活動している。居心地の良い空間、読書しやすいスペース、わかりやすいPOPなどの工夫をしている。子どもたちも、わずかな時間を見つけて図書館に足を運ぶ姿が見られるようになった。先生方は、学校図書館を積極的に授業で活用するようになった。

(委員長) 中学校の状況を教えてほしい。

(委員) 学校司書が配置されている学校は、配置されていない学校の図書館に比べて明らかな差があるのは事実である。出張等で、学校図書館に入った瞬間にわかる。

(委員) 学校図書館の環境は学校司書が配置されることによって大きく変わった。次のお話会の内容を伝えと、学校司書が関連本を読み聞かせの当日までに用意し、展示してくれる。

すべての子どもたちに、読書の大切さを伝えるためには、学校司書の役割が重要だと考えている。

(委員長) 学校司書の勤務校数などの勤務状況について教えてほしい。

(委員) 1人の学校司書が2校を兼務しており、1校あたり2週で3日の勤務である。中学校に配置されているところでは、同じ学区内の小学校と兼務していることが多い。小学校は全校配置されているが、中学校は8校のみ配置で、残り15校は未配置である。

(委員長) 横浜市の場合は、1校に1人の学校司書が配置されている。

(委員) 取組の評価には、定量的な評価と定性的な評価がある。その双方の特徴を踏まえて実施していくことが必要である。

小学校の新学習指導要領が昨年度から完全実施となった。そこで言われているのが、自立した人間として主体的に学びに向かい人生を切り拓いていく「資質・能力」の育成である。子どもの読書活動を考える際にも、その視点が大切である。子どもが自分から課題や問題の解

を探しに行くことが求められている。そのような新しい学習は、学校図書館の機能が大きな支えとなるものだと考えている。

特別支援学校においても、聾学校では、文字や視覚情報を活用・重視した教育が伝統的に行われてきた。肢体不自由の子どもが学ぶ特別支援学校においては、学校図書館の利用に至るまでの移動等、アクセシビリティへの合理的配慮をどのように行っていくのかといった視点が大切になる。

(委員長) 横須賀市立の特別支援学校における読書活動の現状について、事務局から報告していただきたい。

(事務局) 横須賀市には、聾学校と養護学校の2校の特別支援学校があり、両校とも読書活動に力を入れていることは確認している。ただし、その詳細について報告できるだけの材料を持ち合わせていない。次回の委員会で報告させていただく。

(委員長) 通常学級の子どもたちの中にも、平均6.5%程度の割合でADHD等の子どもが在籍しているというデータもあるので、そういった子どもたちへの対応についても、次の計画に盛り込めたらと思う。

(委員) 学校司書の仕事の内容は、小学校と中学校では異なるのか。また、知的なハンディキャップを持っている子どもたちに対して、どのような読書活動を行っているのか。

(事務局) 小学校と中学校の学校司書の仕事内容は基本的に変わらない。ただし、子どもの発達段階が異なるので、それに合わせた対応をしていると聞いている。例えば本のレイアウトやPOPの提示についても、小学生に対してと中学生に対してでは、その効果的な方法は異なる。

知的なハンディキャップを持った子どもに対する読書活動については、他の子どもたちに対するアプローチと基本的には変わらない。

(委員) 学校図書館を活用した調べ学習については、効果が大きいと感じている。調べ学習の素晴らしい成果物が校内に掲示されているし、活動中の子どもたちの目も輝いている。小学校だけでなく、中学校でも学校司書が配置されたところは、授業活用が進んできている。ただし、先生方が大変忙しいので、学校司書の方が毎日来てくれればという声も聞いている。

(委員長) 続きまして、資料3の10ページ、「第4次計画へ向けての課題」及び11ページ「第4次計画の取組」について、事務局から説明をお願いします。

*「第4次計画へ向けての課題」及び「第4次計画の取組」について、事務局が説明。

- (委員長) 事務局からの説明に対して、ご意見等はあるか。
- (委員) もっと横須賀市全体で読書文化を育て、機運を高めていく必要があると思う。藤沢市や横浜市の読書計画のような、分かりやすいキャッチフレーズがあったほうが良いのではないか。
- (委員長) たしかにキャッチフレーズのようなものがあると伝わりやすいので、事務局で検討していただきたい。
- (委員) 幼児期での読み聞かせの重要性、なぜ対面での読み聞かせが大切なのか、みんなに伝わるような表現にしてほしい。
- (委員長) コロナウイルス感染症拡大により、対面での読み聞かせが難しくなっている現状があるのも事実。しかし、子どもにとって、直接的な対面でのコミュニケーションが重要であることに変わりはない。
- (委員) 乳幼児期の子どもにとって、読み聞かせといった愛着形成の機会が大切。鳥取県では、読み聞かせの大切さを伝えるためのリーフレットを作成している。こういったものをプレママ・プレパパ講座で渡して説明したり、母子手帳交付や3歳児健診の際にも渡したりするとよいのではないか。
- (委員長) デジタルについて、一概に悪いと決めつけるのは違うのかと考えている。アンケート結果でもデジタル書籍を読んだ経験のある子どもが6割を超えている。デジタル・アナログのどちらかを否定するのではなく、それぞれの良い面を取り入れることが必要ではないか。
- (委員) デジタル書籍については、読み飛ばしがちになる、紙の方が頭に残りやすいとの研究もある。
- (委員長) 新たなメディアに対しては、当初は批判があるのが常である。テレビを見るとハンディキャップにつながるという言葉もかつてあった。しかし、横須賀市として電子書籍を否定してしまうのはいかがなものか。対象年齢・見せる時間など配慮すべきことはあるが、小学校教育にタブレットが導入されていることから、デジタル書籍をどう活用するかという視点が現実的である。
- (事務局) 教育委員会内にも、デジタル書籍否定派と肯定派がいるのは事実。電子書籍については、それを与える発達段階を考慮すること、電子であれ紙であれ、個々の子どもの実情に合わせる必要があるのではないか。
- (事務局) 神奈川県内でも電子書籍の導入が進んでいる自治体はあまりない。しかし、コロナ下でのニーズが高まったことにより、横浜市も電子書籍の導入を決めた。電子書籍に対する図書館の考え方も、これから変わってくる可能性が高い。ただし、読書のきっかけとして電子書籍を想定したとき、それが紙の本につながるかどうかは未知数である。図

書館としても、今後しっかりと電子書籍について見極めていきたい。

(委員) 文部科学省は教科書のデジタル化を研究している。デジタル教科書には様々なコンテンツを盛り込むことができる。今後、デジタル教科書利用の進展により、これからの「学び」「授業」が大きく変わる可能性がある。本年3月にまとめられた中央教育審議会答申において、「個別最適化された学び」という大きな方向が示された。デジタル書籍についても、そういった流れの中で考える必要がある。

(委員) デジタル情報については、正しい情報と間違っただ情報を見極める力をつけなければならない。この見極める力をつけられる媒体は紙の本である。紙の本で良いものを見極める力をしっかり身につけたうえでデジタルではないか。まだ正しいかどうか判断できない子どもに、いきなりデジタルを渡すのは危険だと思う。

(委員長) デジタルとアナログのハイブリットも必要である。情報リテラシーを讀書によって身につけることも大切である。

(委員) デジタルの良い面・悪い面を見極めたい。学校教育においても、紙のノートをとるのが苦手な子どもが、タブレットを使って大人が驚くようなレベルの高いノートを作り上げたりする。紙の教科書を読むのが苦手な子どもも、様々なツールを活用することによって、デジタルならば教科書を読めるようになるかもしれない。

個人的にはデジタル書籍は疲れてしまって読めないが。

(委員) 3か月健診の際に、保護者に対して図書館の紹介や読み聞かせの大切さを伝えるブックスタート活動を行っている。読み聞かせとは、豊かな時間を親子で「シェア」することだと考えている。ただし、コロナウイルス感染症拡大により、ブックスタート自体が様々な困難に直面している。現在、マスクに加えてフェイスシールドを着用して読み聞かせをしている。図書館がどこにあるのかを知らない保護者も多い。

(事務局) ブックスタートの機会がBCG接種時から3か月健診時に変わった。コロナが落ち着き次第、ブックスタートの適切な機会については、再度検討したい。また、図書館の周知の機会については増やしていきたい。

(委員長) 1歳6か月健診の機会を使ってブックスタートプラスを行っている自治体もある。妊娠時期の保護者に対して、図書館にマタニティーコーナーを作る等の工夫もあり得る。

(委員) 図書館案内のリーフレット類が地味である。場所がはっきりわかる地図を入れる、イラストや写真を入れる、小学校低学年・中学年・高学年・中学生向けのものをつくる等して、行ってみたいと思わせる工

夫をしてほしい。学校図書館オリエンテーション授業で配布できるとよい。

- (事務局) 対象年齢別のブックリストに図書館の地図が掲載されている。また、児童図書館で子ども向けの図書館利用案内を配布している。
- (委員) 今年度から朝読書を始めた。その際に全生徒に葉を配布した。この葉には校章、学校の外観、今年大切にしたいことが掲載されている。朝読書のたびに意識することができる点が良いと考えている。子どもたちは喜んでくれている。
- (委員長) 読書週間にオリジナルの葉がもらえる、10冊読んだら表彰状がもらえる等、小さなことでも学校での工夫はできる。また、各学校で工夫していることを情報交換して共有することも大切である。
小学生と中高生を分けることについては、国の読書推進計画でもそれぞれの対象年齢に分けて計画を立てているので、分けることは妥当だと思う。
- (委員) 小さな子どもは一人では図書館に行けない。いくら学校で子どもが本を好きになるきっかけを作っても、その子どもを受け止める家庭を作らなければ将来の読書にはつながらない。子どもと家庭をつなぐ方法について、次の計画に盛り込めればと思う。
- (委員) 家読(うちどく)という言葉をもっと浸透させてはどうか。大和市では、毎月23日を「大和家読(うちどく)の日」としている。家読に取り組む保護者の割合を目標50%に設定して計画に盛り込んでいる。こうした工夫も必要ではないか。
- (委員長) 親の読書への関心度と子どもの読書への関心度には相関関係があるという研究結果もある。そういった結果や実績を示しながらアプローチすることも必要である。
- (委員) 学校図書館ボランティアとして学校図書館に関わる中で、大きく図書館環境が変わる経験をした。図書館環境が変わることによって、子どもも変わっていった。図書委員が、どうしたらみんなが図書館に来てくれるかを考えるようになった。図書委員長の子どもの案で、図書館案内の動画を制作して昼食時に校内放送で放映した。また、図書だよりを発行し始めた。先生方も変わっていった。学校図書館に人がいると授業の質も変わる。学校図書館が変わることで子どもたちが変わることを実感しているので、学校司書を全校に配置してほしい。
- (委員長) 学校図書館活性化の核になるのが学校司書である。文部科学省の地方交付税交付金で1.5校に1人分の人件費は出ているはずなので、それを活用すれば、学校司書の全校配置も可能なかと思う。

- (委員) 神奈川県内で学校司書が全校配置されていないのは、小さな町を除いては横須賀市と三浦市だけである。(保護者の経済状況が異なっても)「等しく子どもを抱きしめる学校図書館」を目指してほしい。
- (委員長) 公立学校の場合は、自分で通う学校を選ぶことができないので、たまたま住んでいる地域が学校司書のいる学校でラッキーということではいけないと思う。
- (委員) 朝読書によって、子どもが大きく変わることを実感している。朝読書を週1回から毎日に変えた学校では、先生方から読書が習慣化され集中力がついた、語彙力がアップしたなど、子どもが変わったとの声を多くいただいている。大和市では朝読書の実施校は100%である。朝読書実施校100%を目標にできないのだろうか。学校に対する読書に関する調査でも、週に何回実施しているかを調べられないのだろうか。
- (委員長) 事務局は、朝読書の頻度について把握しているか。
- (事務局) 一昨年のデータになるが、朝読書の実施率は小学校が100%、中学校が23校中11校となっている。この設問は朝読書を含んだ読書に関する取組について行っているかどうかを尋ねたもので、朝読書の頻度については調査していない。
- (委員長) 学校では朝読書だけではなく、ドリルを行うなどの学習に関する取り組みを朝の時間を使って行っているという話を聞いている。横須賀の小中学校の実態はどうか。
- (委員) 本校では、朝読書は週に2回である。朝の15分間はモジュールとして教科の学習にあてている。朝読書の効果は落ち着いて読書に取り組み姿勢を身につけるのに役立っていることを実感している。朝読書からは外れるが、学校図書館の活用について、現在は調べ学習の際にクラス単位で図書館を利用するという形態が主だが、これからは調べたい時に調べたい子どもがいつでも学校図書館を利用できる態勢を整えたい。そのためには、学校司書が常駐していることが理想である。
- (委員) 本校では、朝読書を週に4日行っている。子どもたちは登校すると本を広げる習慣が身につき始めている。しかし、朝の時間(フロント時間)を活用した学習を進めようという動きもある。もちろん朝読書も大切だが、その兼ね合いについては検討が必要である。今年度から1人1台のChromebookが配布されている。横須賀市としても力を入れている事業でもある。朝のホームルーム等でも、連絡掲示板として使う学校も増えてくると思うので、朝読書を進めていく上では、各学校でも検討が入ることを考慮する必要がある。
- (委員長) 中休みや放課後の学校図書館の実態はどうか。

- (事務局) 学校に対する調査では、昼休みについては一律に学校図書館を開いているかどうかを尋ねているが、中休みや放課後については個別に質問していないので、どのくらいの割合で開いているかはわからない。
- (委員) 学校司書が配置されている学校では、勤務時間をずらして放課後に学校図書館を開くことができるように工夫している例もある。しかし、多くの学校では、せっかく昼休みに学校図書館を開いても、子どもの生活エリアから離れたところに学校図書館があるので、短い昼休みの時間だと図書館に行って帰るだけで終わってしまうのが実態である。もっと開館時間を増やすことを考えなければならないと思う。
- (委員長) いただいた意見を事務局で整理し、プロジェクトチーム等で意見を反映させた本計画の骨子案、素案を検討し本委員会で策定にあたるということで改めて確認したい。

(3) 第4次横須賀市子ども読書活動推進計画改定スケジュール

- (委員長) 議題3「スケジュール」について、事務局から説明をお願いしたい。
*事務局から【資料4】「第4次横須賀市子ども読書活動推進計画改定スケジュール」について説明。
- (委員長) それでは、今後、このスケジュールのもとに計画案の改定にあたるということでもよろしくお願いしたい。
次回委員会の具体的な日程について事務局で案はあるか。
- (事務局) 次回委員会のスケジュールについては、7月下旬、具体的には7月29日(木曜日)午後か、30日(金曜日)午前・午後でお願いしたい。
*各委員のスケジュール確認により7月30日(金曜日)14:00開会で決定。

(4) その他

- (委員長) 引き続き、議題4「その他」について、事務局から何かあるか。
- (事務局) 議事録は、作成でき次第、各委員に送付する。内容をご確認いただき、修正等がある場合は、ご連絡いただきたい。全員の確認後、市政情報コーナーとホームページで公開する。
- (委員長) 本日の委員会は、これで終了する。